

めざせ業務のスリム化！
～森林事務所のIT化に向けて～

茨城森林管理署 石塚森林事務所森林官 堀口 剛
業務第一課森林ふれあい係 彦田 祥子

1. 研究の動機

今年度より念願の森林官として業務を行っていますが、2つの森林事務所を併任していることもあり、管内状況の把握に時間がかかり、外部対応で手間取ったことがありました。また、森林官の重要な業務の1つである境界管理についても計画的に実施できていないのが現状です。

これらの現状を踏まえて、①森林情報等の収集と蓄積、後任者への情報提供が効率的にできないか、②境界管理の省力化・効率化ができないか、の2点を業務改善の課題とし、日々の業務で取り組んだ内容について報告します。

2. 研究の内容

①については、国有林GISとGPS付きデジタルカメラの活用により、情報の収集と蓄積ができると考え、その作業に必要な時間を計測して事務改善につながるかを検証しました。

②については、事務所に配布されているPDAを活用し、境界情報の更新を簡単にできる方法を検討しました。

さらに、情報を電子管理するツールであるICタグを境界管理に試験的に導入し、業務の省力化につながるかを併せて検証しました。



ICタグ（左）とPDA

3. 研究の結果

①については、国有林GISとGPS付きデジタルカメラを活用することで、情報の収集や写真の整理が容易になり、情報の蓄積が効率的に行えることが判明しました。また、国有林GIS上に写真などで情報を蓄積していることから、後任者が林道の入口や林小班ごとの状況を把握しやすくなったと思われます。

②については、PDAの活用により現場で事務を含めた作業やデータ更新を行うことができることから、とても有効な手段であると考えられます。

また、境界管理にICタグを活用することにより、現場での作業時間が短縮されることが実験により明らかとなりました。今後、タグの価格や性能が更に改善されれば、境界管理以外にも多用途に利用していくことができると考えられます。



ICタグによる実験風景

4. 考察

職員の減少が進む中で、広大な国有林を管理し、効率的に業務を行っていくためには、本研究で使用したIT機器の活用が必要不可欠であると考えられます。しかし、現状ではこれらの機器や使用環境が十分整備されているとは言えない状況です。

今後、現場で使いやすい機器の導入を促進することや研修等による人材の育成等、さらに使用環境の整備や新技術の開発・普及等が早急の課題ではないかと考えます。

一方で、IT機器を活用した現場業務を行う中での不測の事態に備えて、IT機器に頼り切るのではなく、個人の経験や技術もしっかりと継承していくことも重要であり、これらの相乗効果により業務を効率的に進めることが必要であると考えます。